

平成29年度 事業計画

平成29年度は、第3期指定管理期間（平成28年度～平成32年度）の2年目となります。第3期の指定管理者の応募の際に提出した5年間の事業計画書に基づき、今年度も年次毎の事業計画を作成し、着実に実施してまいります。また、第3期は、新たなパートナーである株式会社JTBコミュニケーションデザインと共同事業体を構成して事業を進めています。当財団は30年に亘る運営ノウハウと実績と信頼をもとに、JTBコミュニケーションデザインの様々な施設の運営により培ってきたノウハウを活用したコンサルティング支援を受け、施設の新たな魅力向上や集客向上に向けた施策を市と協議しながら積極的に推進します。

帆船日本丸は、日本国内に現存する希少な「リベット構造」を持つ帆船で、国内開発された船用大型ディーゼルエンジンを搭載するなど貴重な海事遺産です。

3月10日に、国の文化審議会において、帆船日本丸の重要文化財指定に向けた答申がされました。今後、文化的な価値の高さを積極的に広報するとともに、集客アップに向けた取組を進めます。また、市と協力して文化財の価値を保全しつつ、総帆展帆、海洋教室など帆船日本丸を活用した事業も積極的に推進します。

横浜みなと博物館では、常設展示の魅力アップを図るとともに、6月には、「石巻かほく復興写真展」、7月には「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」を、10月には「江戸へ魚を送れ！ー漁場としての横浜周辺の海」、2月には「ずっと港のまんなかには 新港ふ頭」等の企画展を開催します。

また、横浜市が横浜みなと博物館の展示スペースを活用し、常設の「柳原良平ギャラリー」（仮称）を今年度設置します。

日本丸メモリアルパークでは、アリーナでの音楽イベントをはじめ、横浜市や企業、団体、NPO等と連携したイベント等を開催します。

みなとみらい21地区という賑わいエリアの特性を踏まえ、多様な主体と連携した事業に取り組み、帆船日本丸と横浜みなと博物館、日本丸メモリアルパークの一体的な運営管理を行い、賑わいづくりと集客増・収入増を図ります。

1 事業運営の方針

(1) 年次計画の目標

目標は、横浜市との「平成29年度協約」の目標と同じく、帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場数8.15万人（対前年比1.9%増）、日本丸メモリアルパーク利用者数138万人（対前年比3.0%増）、来校数610校（対前年比2.5%増）とします。また、お客様満足度97%以上を目指します。

(2) 利用者の拡大と一層のサービスの向上

お客様に気持ち良くご利用いただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、サービスの向上に取り組みます。利用者ニーズを的確に把握した取り組みを展開するとともに、引き続き来場者の増加が期待される、学生団体と訪日外国人に向けたキャンペーンやサービス向上策を講じます。

施設運営の大きな特徴である、登録人数計2,300人を超えるボランティアとの協力体制を引き続き充実させます。

また、JTBグループのノウハウを活用し、施設の魅力向上に向けたデータ収集や分析を行い、新たなプロモーション施策とサービスを提供します。

(3) 安全・安心して利用できる施設管理

日頃からパーク内を巡回し、子どもや高齢者、障がい者にも安心して利用していただけるよう施設管理を行います。また、地震や津波、風水害等の発生時には、お客様の安全を第一にした避難誘導を行うなど必要な措置を迅速に講じます。

訓練センターは、災害時における帰宅困難者一時滞在施設としての役割も、新たに果たしていきます。

(4) 料金体系の見直し

利用実績やイベント実施、繁忙日等を考慮しながら、柔軟な料金体系を設定します。お客様のニーズに応え、帆船日本丸・横浜みなと博物館のどちらか1つの施設を見学できる単館券を発行し、また高校生料金を子ども料金帯の設定で継続します。

小・中・高校生料金が従来無料であった毎週土曜日については、昨年度から100円の特別料金の設定を行っており引き続き実施します。この料金収入は、子どもたちの社会貢献活動の一つとして周知し、帆船日本丸進水100年に向けた保存事業に使用します。

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢88歳を迎えることとなり、船体の強度を保つための構造部材である外板、フレームのほか、帆走艀装、木甲板など各所の老朽化が進み、早急の処置が必要となってきました。年次検査に合わせて的確に整備を実施するとともに、今後計画される大規模修繕の準備については、横浜市に協力していきます。

船体整備を進めて安全確保を行いながら、帆船日本丸を活用した市民参加・体験型の事業展開を図るとともに、市民の皆様が日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めます。また、国の重要文化財指定に伴い、今後の保存・活用計画の作成について、横浜市に協力していきます。

(1) 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行います。

ア 日常保守点検

- (ア) 観覧者通路・公開区域の安全点検整備
- (イ) 船内及び甲板清掃、船内真鍮磨き
- (ウ) マスト、ヤードその他帆装艀装の定期的な点検整備等

イ 年次船体整備

- (ア) 中間検査受検工事、木甲板及び木艀装品一部新替
- (イ) 静索の点検整備等

ウ 災害防止

- (ア) 観覧者、総帆展帆協力者及び甲板整備協力者の安全の確保
- (イ) 船内防災センターにおいて、火災や地震等の災害及び不法侵入者の防止に備えて、24時間体制で集中監視を実施

(2) 公開事業

船内を年間290日程度一般公開します。今年度も同様に、お客様のご意見を反映させることによりサービスの向上に努めます。お客様に大変ご好評頂いている、現役時代の日本丸に乗船経験のあるガイドボランティアによる船内ガイドを毎日実施します。また、展帆ボランティアの協力による総帆展帆や、満船飾及びイルミネーションを行うことで、帆船日本丸の美しい姿を来場者に実感していただきます。また、昨年に引き続き、特別見学会（未公開ゾーンの見学会及び修繕工事見学会や船長トーク付の見学会）の開催に取り組み、帆船日本丸の魅力を多くの皆様に伝え、観覧者の誘致に努めます。

(3) 青少年錬成事業等

帆船日本丸は、青少年が船上訓練などを行うことにより、海・船・港に関する知識を学ぶ教育施設です。また、団体生活を行うことにより、強い心と体を培う施設でもあります。帆船日本丸及び訓練センターを活用して、

青少年錬成のための「海洋教室」や海洋教育としての「船の講座」を開催し、海事思想の普及に努めます。加えて、夏季に、小学生向けの自由研究教室を行います。

3 横浜みなと博物館事業

横浜みなと博物館の魅力の発信力を強化し、当館ならではの企画展等を実施するとともに、既存の事業の一層の充実を図り、魅力的な博物館づくりと新しいファンの獲得を目指します。

市民ボランティアとともに、展示や教育普及、アウトリーチ活動を通して、多くの人々が海や港、船に親しみ、興味をもつことができるように、体験的な教育プログラムを用意します。

そして、こどもから大人、ファミリーまでが楽しめる博物館づくりに努め、リピーターと新しい入館者の増加を図ります。

(1) 常設展示事業

常設展示をより、楽しんでいただくために、市民の展示案内ボランティアによる展示の案内、説明を毎日実施し、入館者の満足度向上とリピーターの確保に努めます。また、28年度から始めた「館長トーク」や「学芸員のワンポイント展示解説」を引き続き実施して、展示内容の理解をより深めていただき、展示の魅力アップに努めます。また、調査研究による成果を展示して新しい情報を発信します。

(2) 特別展示事業

帆船日本丸が国指定重要文化財に指定されることを記念して、7月から日本丸の航跡を振り返る企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」、10月からは漁場としての横浜周辺の歴史を紹介する企画展「江戸へ魚を送れ!—漁場としての横浜周辺の海」、2月には完成して100年を経た新港ふ頭に焦点を当てた企画展「ずっと港のまんなか 新港ふ頭」を実施します。

展覧会名	会期
東日本大震災 第6回 石巻かほく復興写真展	平成29年6月24日 ～7月2日
企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」	平成29年7月15日 ～9月3日
企画展「江戸へ魚を送れ!—漁場としての横浜周辺の海」	平成29年10月7日 ～11月26日
企画展「ずっと港のまんなか 新港ふ頭」	平成30年2月17日 ～4月16日

(3) 教育普及事業

春は大人向けのミナト散歩、夏は小学生向けの自由研究教室や船の工作教室、親子の海図教室、秋は大人向けの海図教室などを行います。入館者向けには週末土日にリピーター増加のための事業を教育活動ボランティアの協力により行います。土曜日にはこども向けクイズラリーと船の折り紙教室を、日曜日にはファミリー向け事業として好評なペーパークラフト教室、国民の休日にもペーパークラフト教室と折り紙教室を行います。大人向けのクイズラリーも適宜実施します。また、1年間連続して活動する小学生向け体験型事業である「横浜みなとキッズクラブ」を実施します。

(4) 新たな魅力の創出：柳原良平ギャラリー（仮称）設置

横浜市は、昨年ご遺族から市に寄贈された4,848点に上る柳原良平氏の作品や資料を当博物館の常設展示として本年度設置を進める予定です。当財団では、展示場所の選定や現在の常設展示・特別展示室との動線計画、展示作品選定及び展示方法、運営等の設置計画策定に協力するとともに準備を進めます。

横浜と船・港・海をこよなく愛した柳原良平氏の作品のすばらしさを多くの入館者に伝えられる常設ギャラリーを目指します。開設は来年4月予定です。



切絵 氷川丸と山下公園



リトグラフ アトリエ



油彩画 飛鳥入港



油彩画 にっぽん丸夜景

4 帆船日本丸の国指定重要文化財の答申を受けての取組

国の文化審議会は、平成29年3月10日に開催された文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに「帆船日本丸」を国の重要文化財に指定することについて、文部科学大臣に答申しました。

今回の答申に際しては、海運史、造船技術史上において次の点が評価されています。

長い期間にわたり船員養成の任を担い、四方を海に囲まれた我が国の海運業の発展に貢献したこと。

現存希少な戦前建造の船であり、建造当時の横肋骨方式リベット構造で建造時の補助機関を搭載する等、構造、艤装をよく伝えていること。

日本丸に残された航海日誌、機関長日誌等の日誌類や建造時の図面類、加えて船体・機関の来歴や検査記録により、運航や修繕の内容を体系的に知りうる資料が存在し、我が国の海運史、造船技術史等研究上に貴重であること。

これを受けて、指定管理者代表団体である本財団では、「横浜船渠株式会社第1号ドック」（2000年国指定重要文化財）に加え、「帆船日本丸」が国の重要文化財の指定を受ける意義を十分認識し、次のような取組を実施します。

(1) 答申から指定に向けた横浜市（所有者）への協力

今後予定される文化財保存・活用計画の作成や大規模修繕の準備について、専門的知識等を活かし市に協力していきます。

(2) 告知・広報

ア 現場でのPR

帆船日本丸船橋やアリーナステージ上での横断幕を掲出し、来場された方々への周知を図ります。また、重要文化財指定に向けて記念チラシを配布するとともに記念スタンプを用意しご利用いただくなど、来場された皆様とともに国重要文化財指定をお祝いします。



横断幕でPR

イ WebサイトなどでのPR

財団やJTBコミュニケーションデザイン、横浜コンベンションビューロー等連携事業者のWebサイトを活用し、「帆船日本丸が国指定重要文化財へ！」の周知を図り、帆船日本丸や関連イベント等にお越しいただけるよう集客を図ります。

また、「広報よこはま」等を活用し、市民の皆様への周知を図るとともに、帆船日本丸に乗船いただけるよう働きかけていきます。

ウ 最寄り鉄道駅へのポスター掲出

鉄道事業者の協力を得ながら、JR線桜木町駅やみなとみらい線みなとみらい駅を始めとした各駅構内に周知のためのポスターを掲出します。

エ 京急車両への広告掲出

西区役所が実施した公募事業「横浜駅 新感動キャンペーン」に参加し、3月20日から6月4日までの期間、京急電鉄快特1編成8両を無償提供いただき、広告掲出します。車内の中吊り半分片面全箇所を使った「帆船日本丸国の重要文化財へ！」を掲出します。このキャンペーンは、全国都市緑化よこはまフェア開催と連携した取組となっています。文化財ブランドを活用し、指定の周知と集客を図ります。



京急車両広告

(3) 記念式典等の実施

今年度最初の総帆展帆(4月16日予定)にあわせ、記念式典を実施し、帆船日本丸船長の文化財答申の報告、横浜市消防音楽隊の記念演奏等を行い、来場の皆様とともにお祝いします。

(4) 記念企画展の実施

今年7月15日(土)から9月3日(日)にかけて、「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡展」を開催し、多くの皆様に日本丸の歴史や足跡、文化的価値を知っていただき、保存活用について理解を深めていただきます。

(5) 企画展関連事業

記念企画展に関連し

ア 7月には、記念シンポジウム「近代の文化・産業遺産 帆船日本丸の重要文化財指定」(仮題)を開催します。

イ 8月には、現役時代の貴重なフィルム数点を使い当時の様子を活写した記念映画会「映像で見る練習帆船日本丸の航跡」を開催します。

ウ 企画展期間中に数回、船長や館長及び学芸員によるフロアガイドを実施します。

(6) 帆船日本丸保存のための市民の理解を得る取組

未公開ゾーン見学会や修繕工事見学会、船長トーク付き見学会等を開催し、文化財としての保存・活用について市民の理解が得られるよう努めます。



船長トーク付き見学会

5 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

ア シーカヤック体験教室

日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車道側水域において、NPO法人横浜シーフレンズと連携しシーカヤック教室を開催します。また、土日や祝日に開催する一般教室や子ども教室、平日教室に加え、リピーター向けに1日ツーリングコース、レスキュートレーニング講習、横浜港満喫ツーリングコースを開設します。

横浜市立大学、横浜国立大学・神奈川大学、放送大学との連携教室等を開催します。

イ カヌーポロ教室

NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、子ども向けカヌーポロ教室に加え、新たに一般向け教室を開催し、青少年育成と競技の普及を目指します。



横浜港満喫ツーリングコース
(シーカヤック臨港パークコース)

(2) パーク利用事業 (イベント)

市民交流・リサイクル事業としてのフリーマーケット、吹奏楽演奏会を初めとする音楽イベントなどを定期的で開催します。また、今年で3年目を迎え人気定着した夏のピカチュウイベントや海洋都市横浜うみ協議会のイベントといった横浜市のプロモーションイベントとの連携に取り組みます。また、みなとみらい21さくらフェスタ2017、ヨコハマ大道芸2017などMM21地区のイベントに積極的に参加するなどし、パークの有効活用を進め、集客増と収入増を図ります。

6 緑地管理及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理・美化

劣化・老朽化している箇所を速やかに補修改善するなど安全・安心な施設管理を行います。また、活動開始3年目を迎えるグリーンボランティアの協力を得て、樹木や草花、芝生等を良好に維持管理するとともに、生き物にやさしいバタフライガ

ーデンやバッタの原っぱ、アマモの育成等に引き続き取り組みます。また、パーク隣接の歩道に横浜市が設置したみなとみらい21まちかど花壇の維持管理にも取り組みます。さらに、美化清掃を実施し、来園者が安全快適に過ごせる空間を提供します。

イ 撮影

製作会社とのコミュニケーションを深めて、製作者のニーズに応えていくことで、テレビ番組やCM、ミュージックビデオなどの撮影のリピーターを増やすとともに、撮影に適した美しい内水域の都市景観を積極的にPRし、更なる利用促進を図ります。

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

当施設は、駅からのアクセスも良く、利用者から好評を得ております。さらに団体・法人等幅広くご利用いただけるよう、Web上での予約状況情報の開示を行うなど、利用者の利便性向上に努めます。また、利用可能な機器類を充実させ、什器類の更新を計画実施することで、より利用効果を高めて集客増・収入増に繋がります。

7 集客増に向けた主な重点取組

(1) 魅力づくり・集客アップ会議の活用によるプロモーション施策の充実

昨年度から月次で行っている「魅力づくり集客アップ会議」やワーキンググループを活用し、共同事業体のパートナーであるJTBコミュニケーションデザインが持つ施設運営ノウハウを生かしたプロモーション施策を継続して実施します。

従来実施してきたお客様の声（アンケート）の項目を一部見直し、スマートフォンなどで意見集約できるツールを導入しました。この来場者データの収集を図るとともに分析を行い、具体の施策展開に活かしていきます。

またミュージアム・ショップならではの魅力づくりと収入増を図るため、過去の売り上げデータ分析を行い、魅力的な商品陳列、商品開発を図っていきます。

昨年から実施しているイベント時の臨時売店も引き続き開店していきます。

また、JTBグループが持つネットワークやリソースを活かした取組を強化していきます。今年度は、JTBユニット商品「地恵のたび」で提案している横浜中華街「重慶飯店」と連携したプランによる団体誘客を図ります。

(2) 学校団体利用の誘致

学校に向けた各種取組を推進し、来館校数610校の達成を目指します。

ア 埼玉県や栃木県の小学校の修学旅行や北海道・東北・新潟・中部に加え、北陸の中学校の修学旅行の誘致

イ 日本修学旅行協会発行の学校向け『月刊教育旅行』への広告掲載による誘客

ウ 神奈川県、東京都、埼玉県の小学校への営業訪問の実施

エ 新たに、帆船日本丸船長や航海士による講話の実施

(3) 入館料金の柔軟な対応

単館券の販売動向を見つつ、春休みや夏休み等に家族やグループで気軽に、かつお手ごろな料金で来館していただけるような料金設定を検討します。大人の料金帯であった高校生の料金を小・中・高校生料金として維持し、修学旅行や東京都、神奈川県を中心とした高校生の来館者を増やしていきます。

(4) インバウンド（訪日外国人客）集客増に向けた取組

引き続き増加が見込まれる訪日外国人観光客獲得への取組として、昨年度に導入した「多言語ガイドシステム」や「Facebook」などにより情報発信力を高め、集客に繋げていきます。また、シーカヤック等のイベントチラシの英語版作成、外国人キャンペーンの継続実施、夏休みや春節など訪日外国人客の多い時期にあわせた取組など、訪日外国人向け施策を拡充してまいります。

パシフィコ横浜と連携して国際会議の期間中の集客に引き続き取り組みます。

(5) 連携イベントによる賑わいの創出

ア みなとみらい21さくらフェスタ2017との連携（4月）

イ 横浜アマチュアコンボバンド連盟主催ジャズイベントの開催（ゴールデンウィーク）

ウ 横浜ミュージックスクール主催横浜バンド甲子園（ゴールデンウィーク）

エ 横浜開港祭2017との連携（6月）

オ ピカチュウイベントの継続誘致（8月予定）

8 組織運営の質的向上に向けた取組

一人ひとりの職員がいきいきと活躍できるよう引き続き次の取組を進めます。

(1) 風通しの良い職場づくり

管理職会議、職員ミーティングや日常業務での議論を通し、職場でよく話し合う風通しの良い職場運営を行います。

(2) 研修の実施

「コンプライアンス」や「個人情報保護」、「防災・緊急時対応」、「接客対応」、「スキル研修」等の研修を実施し、職員の意識や能力の向上を図ります。

(3) コンプライアンスの順守

研修や朝礼等によりコンプライアンス意識の向上を図ります。また、市職員を含めたコンプライアンス委員会の開催等により、コンプライアンスの順守を徹底します。

9 事業一覧表

(1) 帆船日本丸事業	
帆船日本丸公開	船内を年間290日程度一般公開、公開日は次の日を除く毎月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） 年末（12月29日から12月31日まで） 船体整備（1月末から2月下旬まで） ガイドボランティアによる船内ガイドを実施（登録ボランティア48人） JTB「地恵のたび」日本丸船長講話付き見学会
総帆展帆 （実施予定日数 12日）	4月16日（日）・29日（土・祝）、5月14日（日）・28日（日）、6月11日（日）、7月17日（月・祝）、8月20日（日）、9月3日（日）・23日（土・祝）、10月9日（月・祝）・29日（日）、11月12日（日） 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア（延べ2, 236人）
親子展帆 （実施予定日数 6日・計12回）	4月16日（日）・29日（土・祝）、5月5日（金・祝）、7月17日（月・祝）、9月3日（日）、11月12日（日）
満船飾 （実施予定日数 16日）	4月29日（土・祝）、5月3日（水・祝）・4日（木・祝）・5日（金・祝）、6月2日（金） 7月17日（月・祝）、8月11日（金・祝）、9月18日（月・祝）・23日（土・祝）、10月9日（月・祝）、11月3日（金・祝）・23日（木・祝）、12月23日（土・祝）、1月8日（月・祝）・27日（土）、3月21日（水・祝）
海洋教室	半日・1日コース（募集予定人数250人） 小学校高学年海洋教室 7月26日 親子海洋教室 8月5日 自由研究海洋教室 8月1, 2, 3, 4日 他 * マリンスクールを除く（4回合計約700人） 宿泊コース（募集予定人数900人） * マリンスクールを含む（4回合計約400人）
教育普及事業	夏休み特別講座 船の速さを計ろう 8月6日（日） 船の講座Ⅲ 操舵装置 11月5日（日） 船の講座Ⅳ 大人のためのロープワーク 12月10日（日） 新春お年玉船内探検 1月6日（土） 新春特別公開 非公開ゾーン見学会 1月21日（日） 帆船日本丸修繕工事見学会 2月3日（土）

(2) 横浜みなと博物館事業	
常設展示事業	<p>次の日を除く毎日公開</p> <p>月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日）</p> <p>年末（12月29日から12月31日まで）</p> <p>収蔵庫・書庫燻蒸期間（1月28日～2月1日）</p>
展示案内	<p>展示案内ボランティアによる常設展示の説明（登録ボランティア33人）</p>
特別展示事業 (新規)	<p>「東日本大震災 第6回 石巻かほく復興写真展」 会期6月24日(土)～7月2日(日)</p> <p>企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」 会期 7月15日(土)～9月3日(日)</p> <p>関連行事 記念シンポジウム「近代の文化・産業遺産 帆船日本丸の重要文化財指定」(仮題) 7月、記念講演会「帆船日本丸誕生、再生秘話」(仮題) 8月、記念映画会「映像で見る練習帆船日本丸の航跡」8月、フロアガイド 7月～9月</p> <p>企画展「江戸へ魚を送れ!—漁場としての横浜周辺の海」 会期 10月7日(土)～11月26日(日)</p> <p>関連行事 記念講演会「豊かな東京湾の魚」(仮題) 10月、親子さかなクン教室「東京湾の魚たち」(仮題) 10月、「横浜の漁業を知る-金沢漁港見学会」11月、「横浜の魚を体験-親子お魚料理教室」11月、フロアガイド10月～11月</p> <p>企画展「ずっと港のまんなか 新港ふ頭」 会期 2月17日(土)～4月15日(日)</p> <p>関連行事 なるほど!新港ふ頭散歩 3月、記念講演会 3月、ペーパークラフト教室2月～4月、フロアガイド 2月～4月</p>
教育普及事業	<p>教育普及ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施（登録人数19人）</p> <p>横浜みなとキッズクラブ（小学生高学年向け／年間） みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動を同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業です。ワークシートを使った博物館・日本丸探検や横浜港観察会、造船所見学会、シーカヤックなどを7回ほど実施し、活動結果を館内に展示します。</p> <p>キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間） 高校生以下 100 円の土曜日の小・中学生向け事業。展示をよく見て答えるクイズラリーを実施します。</p> <p>楽しい船の折り紙教室（こども向け／年間）</p>

	<p>サンデー・ペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間) 大人のためのクイズラリー(大人向け/6月、2月) ホリデーペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間) ホリデー船の折り紙教室(ファミリー向け/年間) カンタン!船の工作教室(5月3日(祝・水)) なるほど!ミナト散歩-開港の道コース-(6月17日(土)) ソーラーで動く船をつくる工作教室(7月27日(木)・28日(金)) ポンポン船をつくる工作教室(7月29日(土)) モーターで動く船をつくる工作教室(7月30日(日)) 船と港の夏休み自由研究(8月5日(土)~20日(日)) 親子の海図教室(8月12日(土)) 大人の海図教室(11月18日(土)) 春休み・親子の楽しい船の見学会(3月下旬) 館長トーク・学芸員のワンポイント展示解説(毎月)</p>
<p>調査・研究・収 集・出版活動事 業</p>	<p>横浜港を中心とした資料調査・収集・研究及び出版 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映します。また、資料整理のデータベース化を推進します。 出版活動 博物館ニュース・年間行事予定表、企画展に合わせた図録等を出版します。 資料貸出し・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを行います。</p>
<p>ライブラリー事業</p>	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供します。データベース化(約2万3千冊)の蔵書情報はライブラリー、ホームページで公開します。 公開日・公開時間 博物館と同様 利用方法(料金等) 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみの利用は1人100円。 コピーサービス(有料)のほか、レファレンスサービスを行います。 収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集・整理して配架します。また、図書のデータベース化を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持します。 その他 小中学生の体験学習の受け入れのほか、アウトリーチ活動として、周辺区の教育事業や団体・企業の研修への出張講義など館外での活動を行います。</p>

(3) みなとの賑わい創出事業	
水辺の事業 シーカヤック教室	<p>水辺の事業の柱として、NPO 横浜シーフレンズと連携した体験教室を年間を通じて開催します。加えて、リピーター向け中級コース(1日ツアーリングコース、レスキュートレーニングコース、横浜港満喫ツアーリングコース)を開催します。</p> <p>横浜青年会議所を初めとしてその他の団体や組織と連携して開催いたします</p> <p>NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し子ども向けカヌーポロ教室に加え、新たに一般向けカヌーポロ教室を開催します。</p>
パーク利用事業	<p>フリーマーケット、吹奏楽演奏会など定期的なイベントを開催します。</p> <p>横浜市のプロモーション事業と連携して音楽イベントや子ども向けダンスイベント、キャラクターイベントなどを積極的に誘致し、開催していただくようにします。</p>
(4) 緑地管理及び研修施設事業	
緑地の維持管理・活用	<p><u>安全管理・美化</u></p> <p>劣化・老朽化している箇所を速やかに補修改善するなど安全安心な施設管理を行います。また、樹木や草花、芝生等を良好に維持管理するとともに、美化清掃を実施し、来園者が安全快適に過ごせる空間を提供します。</p> <p><u>撮影</u></p> <p>撮影にとっても適した立地であることを積極的にPRするとともに、製作会社とのコミュニケーションを深めて、リピーターを増やし、更なる利用促進を図ります。</p> <p>催事・リサイクル運動市民の会共催のフリーマーケット(年間15回予定)を開催するとともに、各種催事の企画やイベント誘致で利用促進を図っていきます。</p>
研修施設(訓練センター)の管理運営	<p>駅からのアクセス、低廉な利用料金など利用者から好評の会議室の貸し出し(12月29日～1月3日を除く、休館日を含めた年間)を、Web上で施設予約状況公開の範囲を広げたり、施設の使い方を積極的に公開したりすることにより利用者の利便性向上に努め、今まで以上にリピーター利用者の増加を図ります。</p>

(5) 集客増のに向けた重点取組	
団体への取組	<p>横浜市や神奈川県内の小学校の遠足・学校行事誘致のための、タイムリーな情報発信や訪問営業を実施。また、首都圏小・中・高等学校遠足の誘致、全国からの修学旅行誘致のための情報発信の継続、加えて横浜観光コンベンションビューローの教育旅行誘致事業と連携した活動を行います。</p> <p>JTB企画ユニット商品「地恵のたび」参画により全国からお客様誘致を図ります。</p> <p>旅行会社向け施策の定着に向け団体誘致を図ります。</p>
広報・宣伝への取組	<p><u>マスコミへの取組</u></p> <p>新聞社、TV・ラジオ局へ積極的に情報発信を行い、掲載率UPの営業活動を実施し、より多くの利用者に施設やイベントの情報を発信します。</p> <p><u>ホームページとSNSへの取組</u></p> <p>企画展・展覧会、募集型事業など利用者にタイムリーで見やすい情報提供をホームページ上で行います。新鮮な情報を公式Facebookからも情報発信します。</p> <p><u>ガイドブック・専門誌及び地域誌への取組</u></p> <p>「るるぶ」「まっぷる」を始めとする旅行雑誌、月間「教育旅行」等への通年の情報提供を行います。また、「ミレア」を始めとする地域誌、「ENJOY みなとみらい BOOK」を始めとする私鉄沿線広報誌を通じた情報提供を行います。</p> <p><u>旅行会社への取組</u></p> <p>JTBグループを始めとする旅行会社、JR東日本を始めとする鉄道各社旅行部門へ定期的に情報発信し、個人・団体観光客への情報提供や集客チャネルとして連携強化を図ります。</p> <p>訪日観光客への取組・多言語ガイドシステムのサービス提供を継続します。</p> <p>横浜観光コンベンションビューローと連携し、海外で開催される観光展などで海外メディアへの情報提供を行います。</p>
各種イベントの展開	<p><u>定期的イベント</u></p> <p>吹奏楽演奏会 年間14回予定(4月～11月)</p> <p>ロックヤードライブ ファミリー向けを意識したライブステージ</p> <p><u>スポット型イベント</u></p> <p>ゴールデンウィークイベント(ファミリー向け) 音楽、参加体験事業・工作教室</p> <p>ハロウィンイベント(ファミリー向け) 参加型、地域連携型</p> <p>クリスマスイベント(ファミリー向け) 子ども向けワークショップ等</p> <p>帆船日本丸進水88周年記念イベント(全ての来場者向け) 音楽、地域連携型、工作教室</p>

<p>横浜市・近隣施設との連携</p>	<p>西区を始めとした地域の市民活動支援センターの利用団体、子育て支援拠点、老人クラブなどへの施設情報・イベント情報の提供を行い、施設の認知度の向上を図り、また、各区のイベントと連携して来館を促進します。</p> <p>近隣ホテルへの企画展・イベント情報の提供により、観光客(宿泊客)の来館を促進します。</p> <p>(近隣施設連携による相互来館促進)</p> <p>海と山のスタンプラリー 野毛山動物園</p> <p>横浜乗りものフェスティバル 原鉄道模型博物館・日産グローバル本社ギャラリー・日本郵船歴史博物館・三菱みなとみらい技術館</p> <p>横浜マリノス、横浜市交通局等他団体イベントに出展参加し、施設PRを行います。</p>
<p>海と山と丘の公園交流</p>	<p>日本丸メモリアルパーク(横浜市)、神奈川県立相模原公園(相模原市)、国営アルプスあづみの公園(長野県安曇野市・長野県大町市)の3公園交流</p> <p>サンパチェンス写真コンクール 相模原公園(7月～11月)</p> <p>相模の大凧展示(1月)</p>